

# 令和7年度茨城県立笠間高等学校自己評価表

目指す学校像	「 <b>伝統の継承とさらなる躍進</b> 」 ○あいさつや礼儀を尊び、誠実な人間を育てる学校 ○常に勤勉な態度を養い、職業人として必要な学力を育てる学校 ○自主自律の精神を育み、一人一人の進路希望を実現する学校 ○普通科、美術科・メディア芸術科が切磋琢磨し、教育の質を高められる学校	
三つの方針		具体的目標
三つの方針 (スクール・ポリシー)	「 <b>育成を目指す資質・能力に関する方針</b> 」(グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) 「卒業までにこのような生徒を育てます」 ◇何事にも誠実に向き合い、挨拶や礼儀を尊び、職業人としての必要な力を有する人 ◇これからの社会を自律した大人として、楽しく力強く自分らしく生きていける人 ◇地域に誇りと愛情を持ち、社会を動かして高めていく行動ができる人
	「 <b>教育課程の編成及び実施に関する方針</b> 」(カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) 「このようなことを学びます」 ◇共通： 3つの学科の高校として、多様な価値観を持つ生徒が学び合い切磋琢磨し合いながら、社会性・人間性を育てます。 ◇普通科： 体験活動や地域交流を通し、自ら課題を発見し、主体的に解決を図ろうとする力を養います。 多様な目標の実現に向けて、インターンシップや検定への積極的にチャレンジすることによって社会で発揮できる力の基礎を高めます。 ◇美術科： 絵画、デザイン、陶芸の分野を専攻として、それぞれ専門家の教員からの実技指導を少人数編成授業で行います。作品制作に打ち込める環境を生かして、思考力や表現力、創造力、豊かな感性などを磨き、切磋琢磨しながら、自分らしさを表現する力や他者に伝える力、他者と関わる力を養います。 ◇メディア芸術科： 写真、映像、CGの分野を専攻として、それぞれの専門家の教員からの実技指導を少人数編成授業で行います。表現力、創造力、豊かな感性を磨き、作品制作に打ち込める環境において他の生徒と刺激し合いながら、自分らしさを表現する力や伝える力を養います。
	「 <b>入学者の受入れに関する方針</b> 」(アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 「このような生徒を求めます」 ◇自らの可能性に向かって自分としっかり向き合い、物事に真剣に取り組む生徒 ◇多様な価値観に触れることで視野を広げ、自分の特性についての理解を深めたい生徒 ◇美術科・メディア芸術科： 美術の専門性を高めたい人、将来美術・メディアの分野で仕事をしたい人、作品制作が好きな人、美術・メディアの分野で社会貢献したい人、美術系・メディア系の大学の進学を志望する人

今年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
<p><b>【成果】</b>  ・授業におけるアクティブ・ラーニングの定着が図られつつある。  ・進学希望者の94%が進学を決定し、就職希望者の100%が就職を決定した。  ・国公立大学3名を含む延べ23名が大学に合格した。そのため、国公立大学合格者が17年連続となった。  ・登校指導、SGE(構成的グループエンカウンター)、アサーショントレーニング等の支援の徹底により、落ち着いた学校生活が送れている。  ・「笠高キッズ」などの地域連携行事や笠間高周辺の清掃ボランティア活動等に参加する生徒が増えてきている。</p> <p><b>【課題】</b>  ・中学校段階までの基礎学力の定着が不十分な生徒や、多様な支援を必要とする生徒に対する生徒理解や生徒支援の更なる充実が必要である。  ・進学希望の生徒に対し、進路実現のための教育課程編成を含む進学指導体制の充実が必要である。  ・心の問題を抱える生徒が少なからずいるため、スクールカウンセラー等や外部機関の活用による教育相談等の更なる充実が必要である。  ・ICTの利用に加え、AI等の利用についても積極的に進めていく。</p>	基礎学力の定着及び学力の向上に向けた取組の充実と、多様な支援を必要とする生徒への支援体制の整備	①アクティブ・ラーニングを中心とした授業形態の工夫・改善を積極的に行うことにより、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を充実させ、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。	A	B
	②生徒の興味関心を引き寄せる授業やICT(電子黒板等)を活用した授業等、日々研鑽した授業を展開することにより、授業の楽しさを伝え、学習習慣の確立や学力の向上を図る。	B		
	③家庭や関係機関との密な連携や情報の共有化を通して、多様な支援を必要とする生徒に対する学習支援や適切な対応に努める。	B		
	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	④生徒の「主体的な学び」を引き出す授業実践のために、相互授業参観や校内研修を実施する。	B	A
	⑤生徒による授業評価において全項目3.5以上	A		
	問題行動の未然防止や新たな課題への迅速な対応及び家庭や地域等との連携の強化	⑥個に応じたきめ細かな指導を行うとともに教育相談体制の充実を図る。また、学年間、教員間での統一した生徒指導を行うことにより、非行やいじめの未然防止を始め、SNSトラブルやスマホ利用をめぐる問題や課題にも迅速に対応する。	B	B
	⑦家庭、地域社会及び関係機関との連携強化を図るとともに、情報共有のもと協力して生徒指導を行う。	B		
	主体的な進路選択と、その実現のための具体的道筋を考え行動する意識と態度の育成	⑧3年間を見通した体系的進路指導を計画的に実施することで、望ましい勤労観・職業観、進学や就職に対応できる力を育成する。	B	B
	⑨インターンシップや各種講話、「チャレンジ・プロジェクト」に係る取組等を通して主体性を育み、進路実現のための意識と態度の育成を図る。	A		
	⑩学習段階に応じて生徒の資格取得を推進し、進路実現に向けた指導を行う。1年に1資格、卒業までに3資格取得を目標とする。	B		
	心の教育の推進と特別活動の充実	⑪奉仕活動、異校種学校との交流、地域連携行事への生徒の主体的参加を支援し、心の教育の充実と生徒の社会性の確立に努める。	A	A
	⑫部活動や生徒会活動への主体的、積極的な参加を促し、生徒の活力を引き出すとともに、礼節や規律を重んずる態度を養うことで、豊かな人間性を育む。	A		
	美術科・メディア芸術科の教育活動の充実	⑬質の高い指導と様々な体験活動を通して、美術や映像メディアに関する技量を伸ばし、美術や映像メディア系大学への進学を実現させる。	A	A
	⑭「チャレンジ・プロジェクト」に係る取組を通して、美術科とメディア芸術科の教育内容のさらなる体系化と充実を図る。	A		
	⑮美術科・メディア芸術科に関する教育活動の積極的な広報活動を行う。	A		

	地域からの期待と信頼に応えるための積極的な教育活動	⑯様々なメディアを通して、学習指導や生徒指導における実践と成果、生徒の課外活動の様子など、本校の教育活動についての情報発信に努める。	A	A
		⑰特色ある学科を有する笠間高校の様子や未来像を、様々な機会をとらえて地域社会に発信することで、魅力ある学校づくりに資する。	A	
	働き方改革の推進	⑱業務改善と校務の効率化を図り、教育環境の整備と働きやすい職場環境づくりを行う。	B	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
国語	基本的な授業参加姿勢の確立	・始業前に授業を受けるための基本的な準備を主体的に習慣づけさせる。①	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●漢字検定の合格率を上げるために、対策講座を臨時に設けたい。</li> <li>●漢字検定の受検の動機付けをより強めるための指導を実施したい。</li> <li>●小論文対策として、まず短文を多く書く機会を設けたい。その成果を観点別評価に反映するようにしていきたい。</li> <li>●放課後の課外や上述の漢検対策講座を年間計画など長期的視点と月ごとの中期視点で計画的に実施し、生徒が基礎知識や思考などを着実に身につけ、進路開拓に貢献できるようにしたい。</li> <li>●最新の学習システム、学習定着プログラム評価研究などを共有し、生徒が興味関心を増進し基礎基本が合理的に定着できるようにしていきたい。</li> <li>●1年間の授業で目指す学習目標、評価の基準などを示したシラバスを改善し、生徒及び保護者への説明責任が果たせるようにしたい。</li> </ul>
	意欲的に参加できる授業環境の構築	・様々な言語表現に触れながら、言語文化の深さを味わうための授業形態を工夫・改善する。①④	A	A	
	多面的かつ総合的な評価の確立	・評価すべき事柄についてより綿密に考察し、評価の平等性の確保に努め、客観的に妥当な評価方法を開発する。③⑤	A	A	
	ICT活用を活用した授業	・既存のICT教材を活かし、改良することで、ICT活用のタイミングを学び教材研究の一環として積極的に導入する。②	A	A	
	進路実現を視野に入れた国語指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字検定合格を目指しながら、語彙力を身につけ、進路に生かす。⑩</li> <li>・作文や小論文指導を通して、課題内容に十分応じることが出来る文章を書けるようにする。①⑧</li> <li>・感受性を高めた上で、短歌や俳句などの短文を創作し、公募に投稿することで客観的評価を受け入れ、上達を目指すようにする。①</li> </ul>	B	B	
地歴公民	基礎的・基本的な学習内容の定着	・高校での学習内容の基礎となる義務教育段階の学習内容を定着させるため、小単元・学習内容に応じてスモールステップに基づく基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。①②④	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期考査回数減に伴う考査間の単元（小）テストの効果的な回数、内容の検討。</li> <li>●学習意欲の向上を高める授業展開の工夫。</li> <li>●生徒タブレットの効果的な活用の工夫。</li> </ul>
	学力向上のための指導方法の改善	・アクティブ・ラーニングやICTを適宜取り入れながら、生徒が主体的・対話的に学習に取り組む指導方法の展開に資する。①②	B	B	
	公民的資質の育成	・成人年齢18歳への法改正を踏まえ、主権者教育・金融教育・租税教育・法教育などを通じて公民的資質を育成するとともに、社会的に有為な人物としての職業観・勤労観を育む。⑧⑨⑩	B	B	
数学	基礎学力の定着	・少人数編成授業を活用し、机間指導を充実させ、個々の生徒が達成感を味わえる授業を展開する。②④	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲を高めるための授業展開や少人数展開の工夫。</li> <li>・ロイロノートなどのICTの活用を積極的に行い、生徒が主体的に授業に参加できるようにする必要がある。</li> </ul>	
		・アクティブ・ラーニングやICT機器を利用した授業を通して、一人一人が主体的に参加できる授業を展開する。①②	B		

	進路実現に向けた指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入試問題や模擬試験の過去問など、発展的内容を取り入れながら進学課外を行い、進路実現の一助とする。⑧</li> <li>・数学検定の積極的な受検を推奨・資格取得を目指し、生徒の学習意欲を高め、進路選択に生かす。⑩</li> </ul>	B	B	
理 科	自然現象への興味・関心を高める指導法の工夫・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験・観察など体験的な活動やICT機器の活用を通して、科学的思考を養う。①②</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験・観察などの体験的な活動の回数を増やしたい。</li> <li>・科学的思考力を養うためにAIの活用を検討する。</li> <li>・成績下位者がいる中で、上級学校への進学を目指す生徒に向けてどのように発展的な内容を取り入れるかを検討する。</li> </ul>
	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態に合わせた授業展開をし、学習意欲を向上させ、基本的な内容の確実な定着を図る。①④</li> </ul>	A	A	
	生徒の実態に応じた指導の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発展的な内容を取り入れ、上級学校への進学を目指す生徒に対応する。②</li> </ul>	B	A	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書準拠の問題集や小テスト等を活用する。また、必要に応じて補習を行うことで、生徒一人一人に対応する。②③</li> </ul>	A	A	
保健体育	<p>体育においては合理的、計画的な実践を通して楽しさや喜びを味わい、それぞれの運動技能を身に付けられるようにする。また運動における競争や協働の経験から公正公平かつ協力・自己責任を果たせるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科目体育においては、男女共修選択制を導入し、主体的学習活動により運動やスポーツに楽しみながら興味関心を持てるようにする。また、種目を通し様々な生徒と交流を持つことにより協力・公平公正かつ自己責任を果たせるように明確な役割分担等を提示しながら実践していく。今年度からは環境が整備され次第ICT機器を積極的に活用し、具体的課題解決に役立て積極的に学習できるようにし、生涯を通じて運動・スポーツに関わるような姿勢を育む間を見通した授業を展開する。②⑧</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育授業に関しては継続して男女共有選択制を実施していく予定であるが、単元によっては単位数の違いによって、思った通りの時間数を確保するのが難しいクラスがあった。それを次年度は学校行事等を鑑みて計画実施していきたい。</li> <li>ICTを活用できるようになったのが今年度は年度途中ということもあって、活用できない部分もあったので次年度は改善したい。</li> <li>・保健の授業に関しては、様々な情報を提示し、現代における安全健康について、より身近に感じ、生涯の生活につなげられるようにしたい。</li> <li>・体力の向上に関しては、前年度より体力テストにおいてA段階が増えたが、全体としてより、体力向上を意識した授業を展開していきたい。</li> <li>・指導と評価の一体化については今年度同様に教科会議を積極的に行い、常に改善しながら進めていきたい。</li> </ul>
	<p>保健においては健康・安全について日常生活や社会情勢などに照らし合わせて理解を深めさせ、生涯を通じて健康の保持増進を育む態度を育成できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科目保健においては、健康や安全についての現状をタブレット等を使用して調べ学習を実施したり、テーマを設定しグループ学習を実施したりすることにより自他の健康の保持増進について身近なものとして学習出来るような授業を展開していく。②</li> </ul>	A	A	
	<p>体力・運動能力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力の向上については前年度の体力テストの結果をもとに、課題をみつけ、より改善するための工夫を実践していく⑧</li> <li>・科目体育では、効果的な運動の仕方や量について具体的に説明しながら準備運動内容の工夫や、種目の特性による個人及び集団スポーツの実践により、体力・運動能力の向上を含め、生涯スポーツへとつながる授業を実践する。⑧</li> <li>・科目保健では、安全に体力を向上させる具体的に内容を様々な情報をもとに知識を定着させ体力向上に結びつけるようにする。②</li> </ul>	A	A	
	<p>指導と評価の一体化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導と評価の一体化のため教科会を積極的に実施し、生徒の現状把握と授業の安全性に配慮するとともに、評価の観点を明確にして目的意識を持たせながら意欲的に取り組ませよう科内におけるコミュニケーションを重視する。また学期毎にでた成果と課題を次の学期につなげるようにする。④</li> </ul>	A	A	

芸術音楽	授業内容の充実と工夫・改善	・生徒が主体的に授業に参加できるよう、実態に即した教材の選択・精選を行う。 ①②	B	A	主にICTの授業について、生徒が興味・関心の持てるような授業をすることが課題である。また、実技発表においては、その試験を行う前に、1人ひとりに向けた適切な指導をできるように十分な時間と、幅広い方法を模索することが必要だと感じた。
		・言語活動の充実を図り、表現の工夫や感じ取ったことを思考・判断し、表現する力を高める。 ①②	A		
	指導に生かす評価の工夫	・評価の観点を明確にすることで関心・意欲を高め、目的意識をもたせながら学習に取り組ませる。 ①④	B	B	
		・授業や実技発表での課題や反省を記録し、より充実した表現ができるような指導に生かす。 ①②	B		
芸術美術	授業の内容充実と工夫・改善	・生徒の興味関心を引き寄せ、美術の楽しさを伝える授業を実践する。 ①②	A	A	生徒の実態に合わせて、興味関心を引けるような題材や教材の工夫・開発。また、校内発表を含めての鑑賞活動の機会の充実も平行して行いたい。ICTを積極的に活用できるように、生徒が持参する習慣の確立。
		・授業作品の校内展示を行い、美術科・メディア芸術科と互いに作品を鑑賞し合うことで、より充実した制作活動に繋がるように指導する。 ②③	B		
	指導に生かす評価の工夫	・ICT、ワークシート等を活用し、制作の過程を記録、発表、相互鑑賞させることで、主体的・対話的で深い学びの充実を図る。 ①④	A	A	
英語	基礎学力の定着と応用力の育成	・少人数授業の展開により基礎的知識や基礎的コミュニケーション能力を定着させるとともに、課外授業を通して上級学校進学に対応できる学力を身に付けさせる。 ①③	A	A	・単語テストが習慣付けされているが、今後は習得の徹底が求められる。 ・コミュニケーション活動の充実が必要である。 ・ICTの有効活用が必要である。 ・検定の精選が必要である。 ・進学希望生徒の課外や模試の受験については、今後、スタディ・サプリなどを導入し、検討・改善していく必要がある。
		・家庭学習の習慣を身に付けさせるために、ICTを使用して単語を調べる習慣をつけさせたり、単語演習やワークブックなどの課題に取り組ませたりする。 ③	B		
	指導内容の充実と工夫・改善	・ICTを活用しながら、補助教材やワークシート等を工夫し、個々の生徒の実態に応じた指導と支援に努める。 ①②③④	A	A	
		・生徒全員が主体的に授業に参加できるよう、コミュニケーション活動などの表現活動を積極的に授業に取り入れるとともに、観点別評価方法の工夫・改善を図る。 ①②	A		
家庭	生徒の実態に応じた指導法の工夫	・ICT活用、補助教材、実物提示、ワークシートなどの充実を図り、学ぶ内容のイメージが伝わりやすい授業を心掛け、興味関心を高め、生徒の主体的な取り組みを促す。 ①②③④	A	A	・ICTの活用、補助教材、実物提示、ワークシートなどの充実をより一層図り、生徒の興味関心を高め、より主体的な取り組みにつなげる。 ・実験実習の回数を更に増やし、生徒の興味関心を引き出したい。 ・地域と連携し、外部人材による指導・交流を継続したい。
		・指導法の工夫・改善を積極的に行うことで、生徒の思考力の伸長を図り、実生活で活用できる力を育てる。 ①②③	B		
		・18歳成人の法改正を踏まえ、日常生活の中で実践できる能力を育み、自ら考え行動する自立した消費者を育成するための消費者教育を行う。	A		
	実験・実習の充実	・数多くの実験実習を取り入れ、TTの授業を活用したきめ細やかな指導を通して生活力や技術力を高める。 ①②	B	A	
・被服製作や調理実習を通して、創造的に製作する態度や「本当に使える力」を見据えた技術の習得を目指す。 ①		A			
情報	情報化社会に対応できる基礎的な情報活用能力と知識を身に付ける	・検索エンジンを利用した情報収集や、ワープロ・表計算・プレゼンソフトの基本的なパソコンスキルを身に付けさせるとともに、新たに導入される学習者用端末の有効活用を推し進める。 ①②④	A	A	・授業冒頭のワープロ・表計算練習により、基礎的なパソコン操作の定着を図ることができた。 ・Google Classroomを用いたレポート作成・提出指導を通して、アカウント管理や情報モラルの基礎を習得させることができた。
		・身近な事例を取り入れ、著作権や個人情報の管理など、情報モラルの向上を図る。 ①	A		

	資格取得の奨励	・進路実現に向けた取り組みとして、ビジネス文書実務検定などの各種検定受験を奨励する。⑥⑩	B	B	・学習者用端末の活用場面を検討したい。 ・資格取得への意欲喚起を図り、受検率の向上につなげたい。
商業	授業を分かりやすくするための工夫改善	・生徒の実態や能力に応じた学習支援や適切な対応に努める。①②③④	A	A	・個々の習熟度に応じた指導を行い、検定内容に沿った基礎的な操作やビジネス文書作成に取り組みさせることができた。 ・商業の基礎内容にも触れ、情報処理との関連を理解させる機会を設けることができた。 ・資格取得への意識を高め、受検率の向上を図りたい。
		・ICTを活用し、個に応じたきめ細かな指導と支援に努める。②③	A		
	職場環境の変化に対応できる資質と能力の向上と資格取得の推進	・コンピュータの基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、それらを活用し問題を解決できる能力を育む。①② ・各種検定試験に対応した授業内容を取り入れ、資格取得を推進する。⑥⑩	B B	B	
教務	学力の向上と特別な支援を必要とする生徒への支援	・生徒の「主体的・対話的で深い学び」を充実させ思考力・判断力・表現力の伸張を目指しアクティブ・ラーニングやICT機器を取り入れた授業が行えるよう環境整備に努める。①②③④⑤	B	B	学年や他分野の協力を得ながら、年間を通して行事等を実施することができた。しかしながら課題も多く、今後は以下の点について取り組んでいきたい。 ・生徒における学習習慣の確立。 ・内規の見直しと周知を図り、運用の環境整備に努める。 ・HPとSNSの有効活用。
		・特別な支援を要する生徒に個別的・組織的対応ができるよう関係者の連携を図る。①②③④⑤⑥	B		
		・資格取得を推進し、学習に目的意識をもたせることで学習習慣の確立を図る。①⑥⑧⑩	B		
	魅力ある学校づくりと積極的な情報発信	・ホームページ等の更新を学年・学科・部活動など多くの部署に促し、魅力ある学校づくり及び教育活動の情報発信し、受検生の確保に努める。⑮⑯⑰ ・奉仕活動、異校種間交流、地域連携行事への生徒の主体的参加を支援する。⑪⑯⑰	B A		
生徒支援	基本的生活習慣の定着と規範意識の育成	・一人一人の生徒の特性を十分に理解して信頼関係を築き、生徒が自らの意志で学校や社会のきまりを守り、自己の言動や生活態度を律して、より好ましいものに高めようとする力を育み、安心して学校生活を送ることができる環境をつくる。⑥⑦	B	B	校則について見直しをしながら、時代に合ったものへと整備を進めることができた。今後とも適宜見直しを図りつつ、公平で安心して学習に取り組める環境をつくることが今後の課題である。 特別指導の形態について、変えていく必要がある。 いじめに向かわせない生徒の育成を図る方策を考える。
		・保護者、学年内・外、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、その他関係機関との連携を密にし、情報共有をはかり、統一した組織的かつきめ細かな生活指導・支援を行う。⑥⑦	B		
	事故・問題行動の未然防止と教育相談の一層の充実	・いじめに向かわない生徒を育成するとともに、学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめを正確に認知し、防止等のための研修や取り組みを行う。⑥⑦	B		
		・非行防止、交通安全、ネット安心安全利用教育等の講演会等を実施し、生徒の安全やスマホのマナーに対する意識を高めることで、事故・問題行動の未然防止を図る。⑥⑦ ・教員が生徒面談に積極的に取り組むとともに、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、外部機関等の活用によって、教育相談および特別な支援が必要な生徒への指導・支援をより充実させる。⑥⑦	B A		
進路指導	3年間を見通したキャリア教育の推進	・外部講師や進路ガイダンスを積極的に活用し、進路に対する意識を高めるとともに、コミュニケーション能力を育成する。③⑧⑨	A	A	・外部講師や外部業者を利用した取り組みは充実させることができた。新しい体制も開拓しながらアップデートしているので、生徒が積極的に活用するよう促したり手立てを工夫して
		・ガイダンスや企業、上級学校の見学、インターンシップ等の実体験を通して、進路に対して具体的なイメージを持たせる。③⑧⑨	A		

	進路希望の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の進路選択の幅を広げるため、資格取得を推奨するとともに、基礎学力を定着させ、応用力を付けさせるための支援体制を強化する。⑩</li> </ul>	B		いく必要がある。資料室の環境を整えたので3年生の利用は見られたが、自主的に活用する生徒がより増えるようにしたい。資格取得を推奨し生徒が意欲的になるような取組を考えたい。来年度はスタサブを導入するので、個別最適な指導を充実させていきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実現に向けて生徒が自主的かつ主体的に行動するよう、進路資料室の使用を促し、様々な資料や情報、進路ハンドブックを活用させる。⑧</li> </ul>	A	B	
保健厚生	生徒・職員の健康管理の充実および保健意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任や学年と連携し検診未受診の生徒を減らす。各種検診を通して自身の健康について理解を深め健康への意識を高めながら、健康管理能力が育成されるよう促す。⑥⑦</li> </ul>	A	B	今年度は特に外部機関かの講師を招き、専門的な立場からの啓発、指導ができた。定期的に行っている生徒の健康診断から、特に歯科に関しての生徒自身の関心の低さが現れていた。生徒にはさらに自分の健康に関心を持ち、普段の生活習慣を見直していけるように指導を工夫し、継続していきたい。普段の清掃活動は担任の先生方のご指導で生徒がよくやってくれて、清潔な環境が保たれています。避難訓練は関係箇所との連携、教職員の協力で適切に行われましたが、内容については時節に合わせ、より実践的なものにしていく必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任や学年と連携し健康や衛生の重要性を再確認させるとともに、「保健だより」等を通して、生徒・職員一人一人の保健意識を高め、感染症や疾病の予防に努める。⑥⑦</li> </ul>	B		
	学校環境の美化と整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎内外の自主的な清掃作業の習慣化に努める。⑪</li> </ul>	A	A	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・職員が安全及び健康に学校生活を送れるように、定期的に安全点検を実施し安全の確保・保健衛生・学校環境美化に努めていく。⑪⑬</li> </ul>	A		
	防災教育の推進と防災意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と連携した防災訓練を実施し、震災などの非常時に、迅速かつ適切な行動がとれるようにする。⑦</li> </ul>	B	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・充実した防災避難訓練になるよう、訓練の実施内容、実施時期等について検討し、非常時に適切な行動がとれるようにするとともに、平時からの防災意識をより高める。⑦</li> </ul>	B		
特別活動	部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顧問の適性や個性を活かし、生徒の積極的活動を促して部活動の活性化を図る。⑫</li> </ul>	C	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動については専門知識を得た人材を外から受け入れ指導を少しづつ増やしていく必要がある。</li> <li>・生徒中心の行事運営にシフトチェンジしていく必要がある。</li> <li>・キャリア教育について、各生徒が自分事としてとらえられるようにする。</li> <li>・芸術鑑賞会は3年に1回でよい。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動顧問会議などを通して、部活動の活性化と円滑な活動、及び適切な予算配分を進める。⑫</li> </ul>	A		
	学校行事の生徒の自主的実践的参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会を中心に、全校生徒が意識をもって行事の企画・運営ができるようにする。⑪⑫</li> </ul>	A	A	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の意見を積極的に取り入れ、学校行事の充実と活性化を図り、生徒の自主性を育む。⑪⑫</li> </ul>	B		
	ホームルーム活動を通し生徒の自己形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LHRの年間指導計画を工夫し、LHR活動の時間を確保し充実させる。⑪⑫</li> </ul>	B	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「キャリア・パスポート」を積極的に活用し、キャリア教育の充実を図る。⑫</li> </ul>	C		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・JRC部・生徒会を中心としたボランティア活動や、生徒の地域連携行事参加を進め、地域交流を図る。⑪⑫</li> </ul>		B			
渉外	P T A活動の活性化による学校教育の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、教職員が協力しP T A活動を実施することにより、地域共々活性化を図る。⑬⑭</li> </ul>	B	B	かしわ祭では役員の方々の協力により大いに盛り上がったが、研修旅行の参加者が集まらないなど係・行事等によって活動の活発さに温度差がある。役員負担を減らしつつもより多くの方々の協力で運営できるような工夫が必要。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や役員会などの機会を通し、学校や地域、生徒が抱える課題や現状を保護者に知らせ、保護者と教職員が協力体制をつくる。⑬⑭⑮</li> </ul>	B		

図 書	図書委員会の活性化	・ 図書を自分たちで管理する意識を持たせ、読んでもらおうとする意欲を増進させることで図書の衛生管理維持のあり方や、多くの人に読んでもらうための工夫などを考え、実行する。⑧⑫	B	B A A B A A A A A A	● 図書委員に対するアメニティ（本の表面のビニール装丁）指導ができず、活発な活動がなかなかできなかった。 ● しかしながら数名の図書委員で参加した図書委員の中央研修会や、水戸地区だけの図書委員の研修会では、積極的に参加をし、笠間高校の図書の現状を公表したことによって各校からの意見が多数寄せられ、このアイデアをもとに、笠間高校の図書館の活性化を図りたいとする意欲的な姿勢がみられた。 ● 本校の本の 72%はおよそ古く情報機能としての図書館の役割を果たしていない。横断的に刷新を図っているが、大量の新刊情報の中から、本校生徒の心身の発達に応じた良書を購入するための基準の設定が今後の課題である。
		・ 図書館が単なる本の貸借の場所と捉えず、学習機能としての利用や、文化に触れられる場所であることを認識してもらうためのアイデアを実行する。⑪⑫	B		
	バランスのとれた図書購入	・ 長期的観測に立って、新規図書の入れ替えを行う。①②	A		
		・ 幅広く文学を捉えて、生徒の興味や関心が持てるような作品を書架し、図書館の利用率を高める。①②	A		
	「朝の読書」の充実・管理	・ 学級文庫をローテーションにし、普段読むことのない本を提供し読書の幅を広げる。①⑰	B	B	
事務	財務会計の適正な執行	・ 予算執行においては、各担当部署からの要望・内容を精査し、適正かつ計画的な予算執行を行う。特に、「チャレンジ・プロジェクト」に係る予算においては、昨年度に引き続き令和7年度も『強化校』となったことに伴い、状況等を見極めつつ、担当者と連絡調整を適時行い、計画的な予算執行に努める。②③⑨⑭	A	A	全体的な予算執行については、各担当部署と連絡調整を行い、滞りなく適正かつ計画的な予算執行を行うことができた。財務会計事務検査での指摘（警備2件）を真摯に受け止め、次年度は事務室内の相互チェック体制を強化し、適正な事務処理を徹底する。管理棟長寿命化改修工事は、工期延長があったものの無事完了した。電気・水道等の樹ロック管理を継続し、漏水防止と省エネに努めた。グリーン購入法に基づき、引き続き環境配慮型精神の優先調達を推進する。
	施設設備の適切な維持管理	・ 茨城県財務規則並びに同解釈及び運用等の諸規則に則り、適切な判断により、適正かつ効率的な執行を行う。⑰⑱	B	B	
		・ 令和6年度途中から行われている「管理棟長寿命化改修工事」においては、令和7年度中に終了予定であるため、県営繕課とも情報共有を進め、より生徒・教職員の安全確保に努めるとともに、工期内終了に努める。⑰⑱	B	B	
		・ 各担当部署の要望に基づき、備品の更新や各所修繕等を計画的かつ適正に行い、教育環境の整備に努める。②⑨⑭⑰	A	A	
	温室効果ガスの排出抑制と省エネ対策	・ 電気・ガス・水道量の記録管理を継続し、漏電漏水等の防止に努め、尚且つ省エネルギーの推進を行う。⑱ ・ グリーン購入法の推進により、環境にやさしい製品の購入に努める。⑰⑱	A A	A A	
美術科	教育活動の充実と楽しい授業づくり	・ 生徒が意欲的に取り組めるよう、授業内容や題材の工夫・改善を行う。①②④⑤	A	A	授業内容の充実と改善は、引き続き継続して行う。進路指導に関しては、次年度は今年度以上に大学進学希望者が多いと予想されるので、今まで以上に連携を強化する必要がある。同様に、生徒が主体的に進路選択ができるように、進路を考える機会の充実と生徒の意思の尊重を図っていきたい。地域連携等についても、引き続き継続して行うことで、生徒にや活躍の機会を提供することに努める。広報活動については、HPの改善や学校説明会などから充実させていきたい。
		・ 教員間で、生徒の実態に応じた指導方法を検討し、連携を取りながら実技指導を行う。①②③④⑤⑯	A	A	
	進路指導体制の充実	・ 早い段階から進路へ向けて意識を持つよう指導し、学年・学科を越えて情報交換を行うことで一貫した進路指導を行い、主体的な進路の実現を目指す。③⑥⑩⑰	A	A	
	主体的な体験活動の充実	・ 地域連携行事、実技講習会、作品展会等を充実させ、生徒が主体的に活動しながら美術の諸能力とコミュニケーション能力の育成に努める。⑨⑪⑫⑬	A	A	
	教育活動の積極的広報	・ 質の高い作品制作ができるよう指導方法の工夫をするとともに、生徒が主体となって作品を広報できるようワークショップ運営や共同制作を行うなど、環境を整える。⑫⑬⑭⑮	B	B	

メディア芸術科	教育活動の充実	・専門の授業での言語活動、表現力を高める授業形態の工夫・改善、地域交流活動等の内容充実など、授業と行事を体系化することによって、映像メディアにおける「伝える力」を伸長する。①②④⑧⑨⑪⑬⑭	A	A	授業内容については新専攻の初年度となる。教員間で連携しながら、生徒の将来の目標に寄り添った運営を引き続き実施していく。広報については X・HP の更新の頻度を下げることなく実施していく。外部連携・依頼については生徒への過負荷にならないよう、今後も調整をしていきたい。進路実現について、計画的・組織的な運用をすることで、生徒が自ら進路実現に向かっていけるような環境を作っていく。
	教育活動の積極的広報	・ホームページによる情報発信を行うとともに、地域主催のコンクール等に積極的に応募したり、映像メディアを媒体とした広報活動に生徒を参画させたりして、メディア芸術科の周知と地域交流を進める。⑨⑮⑯⑰	A	A	
	進路の実現	・学習に対する目的意識を持たせることによって、進路実現に必要な学力及び技能・表現力を伸ばし、進路の実現を図る。①②⑧⑨⑬⑭	A	A	
第1学年	基礎学力の定着	・積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れ、ICTを活用し、生徒たちが主体的に学べる授業を展開する中で、基礎学力や思考力・表現力の定着・向上に努める。①②④	B	B	・ICTを活用しながらアクティブラーニングをもう少し取り入れるなど、学習意欲を持たせ、思考力・表現力の向上を図る。 ・一部規範意識が低い生徒が見られる。自ら時間を守る、高校生としてふさわしい頭髪を自覚する、制服をきちんと着るといった自律性が課題である。 ・修学旅行や進路指導を見据えて、あいさつ・礼儀・基本的な生活習慣を確立する。 ・他者を尊重し、協力することのできる生徒の育成を目指す。
	基本的な生活習慣の確立	・保護者と連絡を密に取り、生徒の状況を把握し、特別な支援を必要とする場合は適切な対応をしていく。③⑥⑦	B	B	
		・学年間・教員間で統一した生徒指導を行い、生徒たちに丁寧に接しながら、他者を尊重し、他者と協力することができる生徒を育てていくように努める。⑥	B		
考える力・伝える力の向上	・授業や総合的な探究の時間、「LIFE」、学校生活を通して、考える力、伝える力を身に付ける。①⑧⑨⑪	B	B		
第2学年	基本的な生活習慣の確立	・服装や時間を意識した生活を送り、笠間高校生としての誇りを持つて生徒の育成に努める。あわせて、社会の一員としての常識やマナーを身につけられるようにする。⑥	B	A	・全ての生徒に全ての教員が統一した指導ができるよう、学年会等で服装や頭髪の指導の基準や方法を共有する。 ・進学や就職を前に、目標に対して計画的に行動できる生徒の育成、集団の中での自分の役割や立場を考えられる生徒の育成を目指し、声掛けを行う。 ・個々の生徒の様々な進路希望に対し、個々の生徒に合わせた適切な進路指導を行う。
		・保護者との連携を密にし、生徒の状況把握に努める。また、報告・連絡・相談を習慣化する指導に努める。③⑦	A		
	非認知能力の向上	・学校行事や部活動、奉仕活動等を通して、やり方を調整・工夫しながら、最後までやり抜く力や他者と協働する力を向上させる。また、自己と他者を共に尊重できる態度の育成に努める。⑨⑪⑫	B	B	
進路に応じた基礎学力の確立	・アクティブ・ラーニングの手法やICTを活用しながら授業の工夫・改善に努め、生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばすことができるような指導に努める。①②③④⑤	B	B		
	・各種進路行事、課外、模擬試験、資格取得、インターンシップなどを通して、目標や向上心を持って学習できるよう促し、進路意識の育成に努める。⑥⑧⑨⑩	A			
第3学年	基本的な生活習慣と社会人としての常識の育成	・学習指導や生活指導を通して、向上心や自己肯定感を高められるように努める。④⑤⑥⑦⑧	B	B	・全体的にももう少しきめ細かな指導ができるように体制などを整えられたらよかった。共通テスト対策、一般常識対策など。就労においても進学においても一般教養が重視される傾向になってきたので底上げが必要。計画的に進める必要がある。 ・タブレットの充電システムを作ってくれとありがたい。 ・進路指導における頭髪服装指導が難しくなっている。 ・自律というのは保護者や地域社会全体の意識向上が必要であると考え
		・卒業後の進路を見据えて、自律した生活態度を育み、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を身に付けさせる。①③⑥⑧⑪⑫	B		
	進路に応じた学力の向上と進路指導の充実	・授業第一とし、アクティブ・ラーニングの手法やICTを活用するなど、授業の工夫をすることによって、思考力、判断力、表現力をさらに伸ばし、生徒が自ら学ぶ意欲を引き出せるように努力する。①②④⑤⑧	B	B	
		・一般常識の学習や共通テスト対策指導の体制を整えるとともに、進路ガイダンスや課外授業、面接指導、個別面談を実施し、希望する進路の実現に向けた指導を行う。④⑤⑥⑦⑧⑬	B		
非認知能力の向上	・学校行事や部活動や奉仕活動等を通して、一つひとつのことに誠実に取り組み、やり抜く力や他者と協働する力を向上させる。また、自己と他者を共に尊重できる態度の育成に努める。⑪⑫⑬⑯⑰	A	A		

※ 評価規準：A：大変よくできた B：よくできた C：普通 D：やや不十分 E：不十分